



発行所 名寄市徳田204番地 1
 北海道名寄高等学校同窓会
 事務局 TEL 01654-3-6842
 FAX 01654-3-6841
 発行人 会長山崎博信 (名高4期)
 印刷所 北方印刷所

奇遇 感動 そして恐縮

北海道名寄高等学校同窓会長 山崎博信



同窓生の皆さん今日は。
 昨年度の報告を兼ね、ご挨拶申し上げます。

◎九月十二日 池袋サンシャインビル五十七階の緑丘会館(小樽商大同窓会館)で、隔年開催である林 泉支部長の名高同窓会東京支部の総会に、武者秀一名誉会長にもご足労を願ひ、出席して来ました。
 その時、私が担任した矢野邦一君に、卒業以来、半世紀振りに出会ったのです。開会セレモニーの挨拶に立った時、最後列左側の席で、斜に構えていました。
 懇親会に入りました。

その矢野君。半月前、名寄で開催の第十五回地域福祉実践研究セミナー全国大会に参加し、その証拠ネームプレートを出したのです。彼は今、川崎市を中心に福祉法人「バナナ園グループ」を経営。十ヶ所の施設のオーナーなのでした。私も出席していた「ホテル藤花」の交流会での席は、僅か二メートルの距離。全く気づかず、池袋サンシャインビルで面談が出来る時は、まさに奇遇。
 ◎次に十月二日の「名高吹奏楽部」札幌公演。札幌コンサートホールキタラでの演奏会。札幌ピヤシリ会(名高同窓会札幌

支部)大島一泰会長、山森鉄夫副会長をはじめとする関係者の方々のお骨折りでも実現いたしました。

泉水宏太教諭のタクトに修した、驚見樹部長他九十二の瞳。一糸乱れぬとはこのことか……。その調べや、深にして妙。私が名寄南国民学校初等科四、六年の時、"楽隊"の一員で、小太鼓を叩いていたことが胸に浮かびました。

感動の拍手は、ドラムの響きを押し止ました。同窓会から武者名譽会長、中枝副会長、母校の先生方等が貸し切りバスで。また、部員にとつての励ましは、札幌ピヤシリ会のメンバーから「演奏会の感想」が集められ、的確な評価と教育的な配慮に感動。

◎また、十月三十一日、札幌すみれホテルでの第五十四回札幌ピヤシリ会総会。ここでは同窓生でもあり、教員仲間でもあった高田涼子先生や中野義幸先生ともしばらくぶりの出会いです。この席では、大島会長から、在札名高四期の仲間が感謝状をいただきましたが、その中に私も同期と言うことで、お相伴にあずかり恐縮以上、会費各位のご健勝を願いつつ……。



名高同窓会のみなさまへ

北海道名寄高等学校長

武者 秀一



薫風のさわやかな季節になって参りました。同窓会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。

平素は、本校の教育活動に対し、ご支援ご協力いただき、心からお礼申し上げます。「名高同窓会」の隆盛は広く人々の認めるところであり、誠に喜ばしく本校の誇りとするところであります。

今春百五十八名の卒業生が新しい門出をし、本校同窓会員は、一万九千四十名を数えるに至り、四月には第六十二期生として百六十名の新入生を迎え、現在四百四十四名の生徒が落ち着いた雰囲気の中、教育活動や部活動に生き生きとそしてさわやかに、充実した学校生活を送っております。

さて、昨年の十月二日(金)名高同窓会札幌支部(札幌ピヤシリ会)のプレ五十五周年を記念する行事として、札幌コンサートホール「Kittara」にて、本校の吹奏楽部の演奏会を企画していただきました。

多くの同窓生の皆様にお集まりいただき、演奏会を盛り上げていただきましたことや、沢山の励ましのことばをいただきましたことに対し、この紙面をお借りいたしましたことにお礼申し上げます。また、演奏会開催にあたり、ご支援いただきました同窓会本部の山崎会長をはじめ、札幌ピヤシリ会の大島会長に感謝申し上げます。

さて、学校の近況を報告させていただきます。進路に関しては国立大学へは現役・

浪人合わせて延べ三十二名、国立短大四名、準大三名、道内私立四大百五名、道外私立四大二十名、私立短大十四名、看護系学校十一名、専門学校三十六名の合格者を出しております。詳しくは、平成二十一年度進路別合格者数をご覧いただきたいと思ひます。

平成二十二年度の運動部活動につきましては、陸上競技部、バドミントン部、バスケットボール部、サッカー部、卓球部、剣道部、ソフトテニス部の七つの部が、支部大会を制し全道大会に駒を進めましたが、全国大会の切符を手にすることはできませんでした。

文化部では、新聞局が九年連続で全国高等学校文化祭へ出場いたしました。

学校行事も年々充実しています。特に学校祭は、全校十二クラスがそれぞれアイデアや工夫を凝らし作成する行灯・クラス展示・学年縦割りの演劇・パフォーマンス・模擬店などがあり、また文化部はそれぞれが日頃の活動の成果を披露しております。今年の名高祭は七月十日(金)～十二日(日)に開催しますが、同窓会の皆様にも是非来場をいただき、ご指導、ご高評をいただけたら幸いです。

また、昨年度の六月に本校のホームページをリニューアルいたしました。学校周辺の四季の風景や教育活動の状況、子ども達の生き生きとした活動内容等、常に新鮮な情報を提供できるよう更新しておりますので、是非、本校のホームページへアクセスしていただきたいと思ひます。最後になりますが、名寄高校の子どものために、本校の教育活動を充実させ、同窓会員の皆様の期待にこたえられる学校づくりのために、全力を尽くしてまいります。そして母校名寄高校のさらなる発展に寄与したいと思っております。今後同窓会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

恩師のたより

名高時代の思い出

旧職員 池田 和幸



名高は、私にとつて最初の職場で、昭和三十八年から昭和四十八年九月まで十年半在職しました。

着任した昭和三十八年は、団塊の世代の始まり、昭和二十二年に生まれた生徒が入学した年で、どの学校も生徒数が急増、同時に技術を習得した若者を求める産業界の要請とが重なり、名高にも工業科が併設されました。新採用の先生が毎年着任し、数年後には教員の半数が二十歳代であったのかもしれませんが。一方、職員室には長く在職の先生も多く、特に名中(旧制)を卒業の方が多かったですね。しかし、昭和四十年から広域人事異動が始まり、長く在職しておられた先生方も転勤となりました。私は教科が数学で、担任は最初に工業科、次に普通科を受け持ちました。新設の工業科の担任は責任が重く苦勞もありましたが、受け持ち生徒から退学者もなく全員が卒業し、就職した時は安堵しました。

名寄の思い出は色々あります。最初の下宿が駅前の旅館「翠生館」。採用同期の浅野先生と同じ下宿、私は玄関に近い部屋で客の出入りが気になりましたし、隣がパチンコ店で人集めの軍艦マーチが勇ましく響き渡り、授業の準備も大変で

した。浅野先生と相談して翌年に村上下宿に移りました。

——生徒M君のこと——

朱鞠内から汽車で通うM君の家が火災に遭い、クラスでお見舞いをしました。数日後、彼は登校途中下宿により、私が玄関に立つと、「これ、先生へ」と言つて新聞紙に包んだ品物を差し出しました。私が「有り難う」と受け取り手にした瞬間、その包みは宙に勢いよく跳ね上がりました。中身を語らず渡す彼、驚く私！朱鞠内湖で朝に捕れた鯉は夕方下宿の池で泳いでいました。

厳冬、一時間目の授業や秋口開催の名高祭の様子は今も懐かしく思い出されます。温暖化の今日と違い寒かったのでどうか、凍傷もよく聞かれました。私も登校時に二回、耳を凍らせてしまいました。黒板が凍ってチョークが使えない、そんな時は生徒を順番にストロブの周りに集めて暖をとらせましたね。名高祭は初秋の名寄の名物行事でもある行灯行列に始まり、ファイヤーストーム、ひんやりとした空気を引き裂く大音響の曲にあわせ、輪になって踊るフォークダンス。誰の目にも幸せの情景として残っているに違いありません。

地域の期待を背に、将来の夢を抱いての名高生。自立した学習姿勢で日々の授業を大切に取組む生徒。さらにクラブ活動、生徒会活動、学校行事等に励んでいた印象に深く残る生徒が大勢おりました。

——最後に私事について——

名寄で結婚し(妻は十六期)、子供が三歳の時に釧路湖陵高校に転勤しました。

絵画寄贈のご紹介

平成二十年十月下旬から十一月月上旬にかけて、北星信金レンガの家「きらり」において名寄高校旧職員である石田きよ先生の「水彩画80の手習い展」が開催されました(会報四十二号で紹介)。その展示会の発起人として活動されました前田利夫さん(名高七期)より、「石田先生が、もしよろしければ水彩画を名高に寄贈してもかまわないですよ、とおっしゃっていますよ」とのお話があり、大変お手数をおかけしたのですが、お言葉に甘え、寄贈していただくことになりました。

寄贈された水彩画は、生徒玄関前のホールに飾られ、多くの生徒の心を癒しています。石田先生、そして前田さん、本当にありがとうございます。

その後、昭和五十六年札幌北高校に転勤、平成十二年に定年退職しました。さらに札幌創成高校に数年勤め、公立校の時間講師をしました。古希を迎えた現在、家庭菜園とテニスを趣味として平凡な毎日を送っています。

名寄高校で一緒に過ごさせていただいた教職員や卒業生の方々との交流も少なくなりました。何時か皆様とお会いする機会が持て、懐かしい名寄時代を語り合えることを心待ちにしながら筆を置きます。



同期会だより

ふるさと同期会

名高六期 渡邊 敏昭

六月二十八日朝、ホテルのロビーで次の再会を約して行われた解散式の後、バスで市内見学に向かうグループの出発を見届ける。無事終わった。安堵感と虚脱感が交錯する。夏の陽光が肌を刺すように照りつける。昨日にも増して今日も暑さが厳しくなりそうだ。

旭川在住者が幹事となった旭岳温泉での同期会から二年目。母校のあるふるさとの同期会は、平成十六年(二〇〇四)の卒業五十周年記念同期会以来六年目である。本格的な準備が始まったのは、二十一年夏の初め、六月に入ってからだった。高校六期生の名寄在住者は三十八人が確認されていた。だが、体調がすぐれない者、都合が悪い者、連絡が取れない者などが居て、幹事に名を連ねたのは十五人だった。代表幹事は、西條百貨店相談役の西條秀勇君(A組)にお願いして体制がスタートしたのは六月十九日である。東京なよろ会の門脇淳君(D組)の要望もあつて、開催日時を二十二年六月二十七日と決め、当日までの作業内容を検討、役割分担を決めた。

九月に入って副代表幹事の佐藤勝祥君(C組)が体調を崩し入院した。初回の幹事会でも不調をおして出席していただけない心配だったが、十二月に訃報に接する。過去の同期会でも名寄開催の折は常に軸となつて活躍していただいただけに、正に痛恨事であった。

年が明けて、土別在住の阿部春男君(E組)も「手伝わせてほしい」と幹事役を

買って出てくれた。ありがたいことであつた。打ち合わせでは、お互いの意思が噛み合わず、侃々諤々、口角泡を飛ばす過程もあつたが、三月に入ってから利尻・礼文の旅、名寄市内見学などのオプションを含めた同期会開催案内の発送にこぎつけた。利尻・礼文の旅は、結果的に希望人数が少なく中止のやむなきに至つたが、在京者ら要望もあつて、かつて利尻で教鞭を執つた恵庭市在住の村上利雄君(F組)にプラン立てなど、ご尽力をいただいた。にもかかわらず実施できなかったことをお詫びしたい。

六期生の卒業名簿には三百十九人が掲載されている。うち、締め切りまでに五十人から出席通知をいただいた。大阪羽曳野市・江本昇君(C組)や新潟長岡市・林君(F組)ら遠方の常連の名も見える。締め切り後の一名と、名寄在住の恩師・名取昭先生のご出席もいただいて当日の参加者は五十二人。全員による記念写真撮影に続いて懇親会に入ったのは午後六時。杉山光司君(D組)の司会進行で、まず物故者への黙祷。前回以降、九人の仲間が鬼籍に入っている。在りし日を偲んで深く哀悼の意を捧げた。幹事代表あいさつの後、名取先生から「ごあいさつを戴く。先生は確か八十年代半ばに近いお年のはずだが、どう見ても我々と同年代。若さを保つ秘訣をたつぷり聴かせていただいた。女性の最遠隔地出席者である、埼玉県春日部市・高橋妙子さん(F組)の乾杯で懇談に入る。合間には、クラスごとの集合写真撮影と自己紹介。病歴報告など健康に関わる内容が多かつたのは、後期高齢者となる(なつた)集団だけに、やむを得ないことか。集合写真と会場のスナップは、門脇君と横浜市・久保智君(B組)が腕を振るってくれる。いつものことな

がら感謝に堪えない。昭和二十九年(一九五四)一月、全道高校スキー大会が名寄で開かれた。我々の卒業年である。三学期が始まると会場の整備。アルペン会場となる九度山(現ピヤシリスキー場)へ徒歩で歩き雪踏み作業も行った。大会当日はマイナス三〇度を超える記録的な大寒波。競技者の中に多数の凍傷者が出て大きなニュースになった。このような在校当時の想い出や近況を語り合い、二次会、三次会と日付が変わる頃まで続いた。お疲れさまでした。次回は二年後、札幌在住者が幹事役となつて開催される。喜寿の祝いを兼ねることになる同期会には全員が元気な顔を見せていただきたい。そんな思いを抱きながら擱筆する。

(同期会副代表幹事・名寄市在住)



名寄高校第6期生同期会 平成22年6月27日 於:グランドホテル藤花

名寄高等学校第十六期 (昭和三十九年卒) 同期会 インなよろ

卒業四十五周年記念同期会 代表幹事 庄司 哲夫

卒業四十五周年記念の同期会を昨年の平成二十一年九月五日(土曜日)に名寄で行いました。

私どもの同期会は、卒業五年目に名寄市で行われた第一回を皮切りに、五年ごとに各地持ち回りで行われています。

一昨年、なぜか東京在住の仲間が企画をして、想定外の同期会を東京で開催し、約五十名が参加しました。

幹事が前段に企画したゴルフとパークゴルフでは、早めに集合した希望者が早々に親交を深めていました。結果は二次会の席で発表されましたが、どちらのコースも最高得点者が幹事だったので勿論辞退していただき、それぞれの次点だった人が優勝の記念品を手に入れました。

四十五周年記念同期会の参加者は一〇三名、恩師の名取先生と近藤先生のお二人が参加してくださいました。卒業して初めて参加したという人もいて、受付で名前を聞かれたり、どのクラスだったかと探している姿も見られました。

一次会は、ホテル藤花の大広間で行いました。写真撮影から始まり、真嶋若子さんの声かけで物故者への黙祷を捧げ、代表幹事である庄司哲夫が主催者としての挨拶をした後、恩師の名取先生と近藤先生から御挨拶をいただきました。先生方には、これからの生き方についてのご示唆をいただいたと同時に、両先生のお元気で若々しいお姿に、我々もそうありたいと願った時間でもありました。

前回開催地の東京代表幹事、湯川高繁



名寄高等学校第16期卒業45周年記念同期会 平成21年9月5日 於:グランドホテル藤花

さんの祝杯で宴会に入りました。今回は定年退職後の正式開催になります。再就職した人、趣味やボランティア等、自分を生かすための新しい場所に付いた人、中には生活に直結した年金の話や、飲んでいる薬の話、家族の介護問題など、前回とは違ったいろいろな立場での会話が会場で飛び交っていました。

四十五年の空白を埋めるにはあまりにも短い二時間があったという間に過ぎ、次回開催地予定である札幌代表、松原静夫さんの音頭で一次会が終了しました。

二次会はホテル藤花のグリーンコートで行いました。途中、ゴルフとパークゴルフの表彰式があり、カラオケもありました。が、一次会での延長話に花を咲かせていました。もっと話をしたい人のために、各クラスの幹事が中心になって三々五々、

街の中に散らばっていききました。十一時を回る頃、名残惜しそうな人たちは、再び他のクラスと合流したりして三次会は十二時過ぎまで続いたようです。

十日後に決算報告を兼ねて、四十五周年名寄幹事会の反省会を行いました。今回の盛会を確認しあい、今後毎年実施されている名高同窓会に積極的に出席することを誓い合って解散しました。

追伸
受付で、名高同窓会会員である三宅章さんの「名寄の絵はがき集二」と、名寄観光協会選定による刷り上がったばかりの「名寄市の記念切手」を販売しましたが、人気があり即完売しました。なお、今回の同期会のしおりの表紙には、三宅章さんが描かれた「旧名高前景」を使用させていただきます。

名寄高校第三十一回卒業生

三十一期同期会幹事 南原 賢一

平成二十一年十月十七日にホテルサンルートニュー札幌で同期会を開催いたしました。古川茂樹を筆頭に、準備委員会六人で七月初旬に立ち上げ、準備を進めました。

卒業してから三十年という月日は長くもあり、現住所を調べるのには苦労しました。その中でも、人と人のつながりがしっかりとあることを確信しました。調べていく中で、受話器の向こうに高校生時期と同じ声を聞き、その時期の生活を目に浮かべながら会話が弾んでいったこともありました。残念なことは、全ての同期生の住所完成とまではいかなかったことでした。

七月下旬には、実行委員会八名増員し、

合計十四名人でとり進めていきました。会場との打ち合わせも進めていく段階で参加者数が予想以上に多く、今回の同期会に寄せる期待が大きいことにも驚いていました。仕事の都合で国外に住んでいる同期生も参加したいと言ってくれていたのですが、日程が合わなかったり、飛行機のチケットが片道しかとれなかったりで、今回は不参加でした。道外からは二十名以上の参加者となったことはとてもうれしく思いました。

当日は、卒業学年の担任であった松浦稔先生(A組)、佐藤徳崇先生(B組)、菅田昌義先生(C組)、淀川徳先生(D組)と、中野義幸先生、高田涼子先生のご出席をいただき、総勢八十九名の同期会となりました。

初めに、実行委員長(古川茂樹)挨拶「三十年という月日を経て、今日このような会を開催できたことをうれしく思います。出席率の良さに驚きと喜びを実行委員会全員が感じています。限られた時間ですが、皆さん楽しんでください。」と。

来賓代表松浦稔先生から挨拶「ご招待いただき、大変ありがとうございます。皆さんは卒業して三十年経ちますが、名寄高校の卒業生として誇りに思い、今後ますますのご健闘を願います。」をいただき、会が始まりました。

一次会は、三時間準備していましたが、高校時代の話や、現在の仕事の話、今回来られなかった人の話に花が咲き、クラス単位や仲間同士での写真撮影をしたり、あつという間でした。途中、校歌を伴奏(鍵盤ハーモニカ)つきで声高らかに斉唱しました。

閉会の挨拶は、兵庫県から駆けつけてくれた奥下伸也君「とても楽しいひとときをつくっていただき、実行委員の方々



に感謝いたします。また近いうちに同期会の集まりがあることを願うと共に、皆さんのご健勝と、名寄高校の発展を願うこの会を閉じます」からの言葉がありました。

二次会は、七十名以上の参加者となり、先生方も当初二次会は遠慮していたのですが、一次会の勢いがよく全員参加していただきました。普段なら広い会場もこのときばかりは非常に狭く感じてしまうほどでした。二時間飲み放題でしたが、飲み物の注文より話に夢中の人がばかり。テーブルの上の料理もなかなか減らない様子。

残念ながら、全ての終了時刻が来てしまい、盛大に乾杯の音頭が告げられました。その後は、スキの街中へ三々五々声を掛け合いながら流れていきました。

実行委員会は、翌年一月に反省会・解散会を行い、その中で「本当にこの同期会を開催して良かった」、「皆、この機会を待ち望んでいたんだね」、「五年後には、また同期会を」、「我がクラスは毎年実施を」など、次の目標を掲げ、再開を誓い合いました。

解散会を行い、その中で「本当にこの同期会を開催して良かった」、「皆、この機会を待ち望んでいたんだね」、「五年後には、また同期会を」、「我がクラスは毎年実施を」など、次の目標を掲げ、再開を誓い合いました。

各支部だより

名寄高校同窓会東京支部
二十一年度総会の報告

名寄高等学校同窓会東京支部は、昭和三十年発足し五十五年の歴史を持っています。

本会は、旧制名寄中学校・名寄高等学校及び名寄高等学校の出身者にして、東京とその近郊に在住するものを会員とし、会は、同窓会本部の活動に協力するとともに、会員相互の親睦と友情を深め、より豊かな生活を求める目的で活動しています。

会員総数は、最大時千二百名を数えましたが、その中で連絡の取れない方も多数居られ連絡に要する事務費も嵩む事から、数年前から二百数十名の名簿で管理を行っています。

会の最も中心の活動としての総会は近年、隔年毎とし、通常九月頃開催しています。総会には来賓として本部より会長及び名寄高校校長先生の御参加をいただき、議事の進行後、同窓生または名寄関係者から特別講演、参加者による懇親会を実施しています。

二十一年は、九月十二日に豊島区東池袋にある「サンシャイン60」ビルの五十七階にある小樽商科大学の緑丘会館で会員五十名の参加の下、開催されましたので、遅くなりましたが、その概要と当日の写真を報告いたします。

総会としては、先ず、林会長（医学博士）の、折から流行中の新型インフルエ

ンザの概要及びその予防法、感染対策などを含んだ挨拶に始まり、ご来賓の武者校長先生より学校の近況及び卒業生の動向等、山崎同窓会会長より、本部同窓会の近況及び現職時代のお話等の挨拶があり、その後、事業報告・会計報告・役員改選等の議事を進行了しました。

特別講演には下川町出身の宮澤國雄様（下川高校・中央大学法学部卒業、東京国税局管内において法人税事務を中心に経験を重ね、麹町税務署長を最後に退職された後、現在税理士を開業）より「ふるさと納税の意義と実際」との演題の下、ふるさと納税制度の制定の目的・意義、寄付金と所得税・住民税の関係、及びその制度を活用した、下川町の「下川町森林づくり寄付条例」の内容の紹介、その寄付金の使途とその効果などについて詳細にお話をいただいた。

懇親会は、一期生の入倉様の乾杯で始まり、参加者は二年ぶりの再会を喜び親交を深め合うほか、新たな交流も得、短時間ではありますが有意義な時間を過ごしました。会場は東京を一望できる高層ビルの一角であり、景色も肴にグラスを傾けあいました。最後に、遠路静岡より参加された三期生の早乙女様の中締めにより散会となり、次回の参加を約束し合いました。

以上、同窓会東京支部の総会について報告いたしました。総会への参加者は、年々減少しております。また、若年層の参加も僅かとなっております。卒業生の減少、卒業生の、本州（内地）への進学・就職数の減少が、大きな要因と考えられ

ますが、その他、まだまだ本会活動の認知度の不足も考えられます。

読者の皆様、ぜひ、東京周辺の同窓生に知り合いが居られましたら、これを機会に左記宛ご連絡され、活動に参加ください。

連絡先

事務局長 渡邊 茂樹

千葉市若葉区千城台西2-7-2

TEL 043-237-5184

✉ wtnsgk00@pub.taisei.co.jp

副会長 渡辺 充

✉ okonos-w.824@icohome.ne.jp



宮澤氏特別講演



会長挨拶

名寄高等学校同窓会東京支部役員名簿 平成21年9月

会長	林 泉	10期			
副会長	岡崎保雄	4期	門脇 淳	6期	山口雅子 11期
	小林正典	11期	中村正道	19期	渡邊茂樹 19期
	利満由信	21期	渡辺 充	21期	西川稔彦 23期
	田村文男	定時18期			
事務局長	渡邊茂樹	19期			
会計	西川稔彦	23期			
名簿管理	渡辺 充	21期			
会計監査	泊り忠昭	13期	矢野富三	19期	
幹事	五十嵐旭	名中16期			
	佐々木寛	12期	滝 みつ子	名女10期	国友成一 1期
顧問	入倉卓志	1期	吉岡三枝子	12期	上村 裕 22期
	澤井廣之	4期	大串泰治	2期	北村知一 3期

旭川ピヤシリ会最後の総会

平成21年9月25日(金) 34回を数えた旭川ピヤシリ会の最後の総会が開かれました。

年々出席者が減り、特に傾向としては、日頃、学年単位やクラス単位で同窓会を開いているグループの参加が中心となり、個人単位の出席が非常に少ない状態が続いていました。幹事会でも議論し、多くの同窓生に来ていただくために、新聞広告、総会・懇親会をホテルではなく、ビールパーティ形式で2年続けたり、いろいろ試みましたが、特に、若者(とはいっても、還暦以下の方々ですが)の出席者は非常に少ない傾向は続きました。

時代といってしまうはそれまでですが、34回を数えて、ここで、一旦、毎年の総会を終わらせるのもやむを得ないという結論に達し、最後となる今総会を迎えました。

総会当日は、72名の出席者でしたが、景品も今までになく豪華版とし、出席者の人たちも、最後の総会を惜しみつつ、またの再会を誓い合い、多いに盛り上がった総会・懇親会になりました。

ピヤシリ会は、総会としては、今回で一旦終え、活動は停止しますが、組織上は、旭川ピヤシリ会は存続します。

今後は、各学年などで、同窓会を開き、同窓の絆を深め、又いつの日か、旭川ピヤシリ会で皆さんが合うのを楽しみにしております。



士別支部「有終の集い」開催される

同窓会報の配付を行っていくことが確認されました。

平成二十一年十一月二十七日(金)、士別グランドホテルにおいて士別支部総会が九年振りに旧名中一名、名高九名、本部から猿谷幹事長、事務局より伴先生が出席して開催されました。記念写真撮影後の総会では、物故者への黙祷から始まり、体調不良の中ご出席いただいた大野忠義支部長のご挨拶、猿谷幹事長のご挨拶の後、倉橋千寿事務局長(名高十一期)より会務報告がなされました。その中で、昭和四十九年一月に士別支部が六十名の参加者のもと印藤英次支部長(名中八期)、今井忠則事務局長(名高二期)のもと結成され、現在まで三十五年にわたる主な活動が話されました。また今井元事務局長より「音楽の渡辺先生が来て、士別支部を作ってくれ、と言われたことから士別支部が始まった」等のお話がありました。しかし、支部会員の高齢化と減少に伴い、支部総会への出席者も少なくなってきたために、平成十二年の総会から継続審議となっていた支部存続について、今回の総会(九回目)をもって士別支部を本部に統合する形で終えることに決定されました。

その後懇親会となり、列車通学の想い出や恩師の話、当時の進路状況、学校公売設立の話など、総会と合わせて二時間半の時間を楽しく過ごしました。途中、別の会合で同ホテルにいられていた五十嵐さん(名高二十三期)も顔を見せてくれました。最後に、支部はなくなるがこれからも士別の同窓生の絆を保つためにも、今後も倉橋事務局長を中心に手分けして



名高同窓会士別支部総会
平成21年11月27日 於 士別グランドホテル



名高同窓会士別支部総会
昭和59年2月19日 於 士別グランドホテル

平成二十一年度 名高同窓会総会・懇親会実施される

総会・懇親会が盛会裏に終了！

平成二十一年度名寄高校同窓会総会・懇親会が去る平成二十一年十月十六日(金)、グランドホテル藤花において約百六十余名の参加を得て盛大に行われました。

総会については、猿谷同窓会幹事長の開会の言葉に始まり、山崎同窓会会長、武者校長が挨拶し、議事に移りました。全ての議案が承認され無事に総会を終え

ることができました。参加していただきました会員の方々のご理解とご協力に心より感謝いたします。

なお、総会・懇親会のスナップ写真と、懇親会に協賛くださいました商社の一覧を掲載させていただきます。協賛くださいました各商社様には、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。本場にあり



懇親会の乾杯



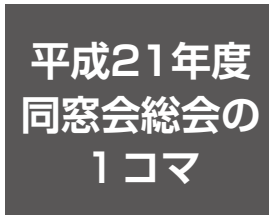
乾杯のご発声をする加藤道議議員



監査報告をする定木監査



次期当番幹事を紹介する猿谷幹事長



挨拶をする山崎会長



挨拶をする武者校長



受付の様子



総会の準備をする当番幹事
参加者
総会で意見を述べる



平成21年度 協賛商社一覧

- | | |
|-----------|-------------|
| (株)北方印刷所 | フタバ |
| サバト家具店 | 松前陶器店 |
| 竹山商事 | 青野海産物店 |
| 清水金物店 | カメラの写楽 |
| (株)黒川商店 | 定木税理士事務所 |
| 新光電気(株) | 東洋肉店 |
| 鳴海商店 | (有)喜多印刷所 |
| 東洋製麺 | なよろ菓子工房ブラジル |
| 北海道電力 | 池田薬局 |
| グランドホテル藤花 | 辻薬局 |
| 村西運輸 | アキ写真店 |
| 柴田時計眼鏡店 | 井上布団店 |
| (株)名文堂 | いろは肉店 |
| 北星信用金庫 | 北昭産業(株) |
| (株)名寄振興公社 | かまくん本舗 |
| (株)森実商店 | 石田商店 |
| 真嶋食品 | 吉川印刷(株) |
| 靴スポーツのすま | スタジオ稲場 |
| 木賀商店 | 大野組 |
| 今田薬局 | 梅村商店 |
| (有)ミヤザキ | (有)カメラのスズキ |
| ベスト電器駅前店 | 倉澤組 |
| 志水商店 | 梅野博司法書士事務所 |
| 喜信堂 | ダスキン滝沢 |



抽選会を進める幹事の皆さん



景品を手にする参加者

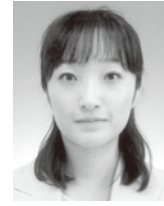


懇親会の1コマ



さわやかな若い波

出会いに感謝



麻月 綾 (54期)

私は、平成11年4月に名寄高校に入学し、平成14年3月に卒業した第54期の卒業生です。現在は、育児休業代替事務職員として名高の事務室に勤務しています。

私は名寄市出身で、幼い頃から何度も名高祭の行灯行列を見物しました。生き生きとした表情で行灯を担ぐ高校生を見て、「将来私もこの列に加わるのかなあ...」とワクワクしていました。

そして平成11年春、期待に胸ふくらませ名高に入学しました。入学当初は試験や課題の多さに戸惑い、挫折しそうになることも多々ありました。しかし、一緒に勉強をする仲間や毎日熱心に指導してくださる先生方がいてくれたおかげで、諦めずに勉強を続けることができました。無事卒業し志望する大学に入学できたのも、名高の級友・先生方のおかげだと思っています。

また勉強だけではなく、様々な経験をしました。宿泊研修・名高祭・修学旅行などを通して、仲間と協力し一つのことを成し遂げる喜びを感じることができました。一番印象に残っているのは、やはり学校祭の前夜祭・行灯行列です。短い準備期間でしたが、その中で多くの思い出を作ることができました。級友たちと仲良く、時にはけんかをしながら？必死にステンドを作ったこと、クタクタになっても一生懸命行灯を担ぎ学校まで歩いたこと、ファイヤーストーム、フォークダンスを踊り花火を見たこと、どれも

全て忘れられない思い出です。『教育実習』

私は名高卒業後、道外の音楽大学へ進学しました。教職課程を履修しており、4年次には名高で教育実習をすることになりました。初めての経験のため分からないことばかりで、担当の先生方やクラスの子供達には色々迷惑をかけてしまい、反省ばかりの2週間でした。しかし、名高生だった時には気付かなかった様々な事を知り、改めて先生方の素晴らしさを実感でき、とても有意義な時間を過ごしました。ちょうど旧校舎を取り壊す直前だったので寂しい気持ちもありましたが、母校に戻って貴重な経験をすることができ、とても良い思い出となりました。

吹奏楽部との出会い

私は幼い頃よりピアノと和楽器を習っており、吹奏楽にもとても興味がありました。しかし、勉強と楽器練習の両立を考えると、入部を断念するしかありませんでした。

大学ではピアノ専攻で勉強し、その中で様々な楽器や合唱の伴奏を経験し、演奏者を影で支える伴奏もとてもやり甲斐のあることだと感じました。名高に戻ってきて数年後、知人を通して名高の吹奏楽部でソロコンクールの伴奏をしないかという連絡が入りました。もともと関心のあることでしたし、母校に恩返しができるのではと思い、すぐ返事をし練習を始めました。

名高の吹奏楽部員はみんな練習熱心で、話し合いながら何度も練習を重ねました。そして、その成果が実り2年連続で全道大会に出場できました。部員達と同じ舞台に立てたことを誇りに思います。

また昨年の10月には、札幌ビヤシリ会プレ55周年名寄高等学校吹奏楽部札幌公演に合唱の伴奏として参加させていただきました。関係者の皆様のおかげで、素晴らしい会場で暖かい声援の中演奏する

ことができました。最後に会場全体で校歌を歌ったことは、最高の思い出です。その時の感動を忘れず、これからも部員達とともに自分も成長していきたいです。たくさんの出会いや経験を与えてくれた名高。名高に出会えたからこそ、今の自分があるのではないかと私は思います。この素晴らしい出会いに、感謝の気持ちでいっぱい입니다。

現在は事務職員として名高に勤務しておりますが、これからも一つ一つの出会いを大切に、生徒や保護者、先生方等に心地よく過ごしていただけるよう日々努力していきたいと思っています。最後までお読みいただき、ありがとうございます。



大野忠義様を偲んで

永年にわたり、名寄高校同窓会士別支部長としてご尽力いただきました大野忠義様が、去る平成二十二年六月十九日、がんのためご逝去されました。

士別支部は昭和四十九年に設立されましたが、大野様は二代目支部長として昭和五十九年二月に就任され、昨年(平成二十一年)の十一月に支部の有終の集いが開催されるまでの二十五年の永きにわたって支部長として、名寄高校同窓会の発展のために勿論のこと、士別支部の活発な活動を支え、まとめ役として多大なお力を発揮してくださいました。また、個人的には、士別市民としては初めての一級建築士の資格を大学在学中に取得され、士別に戻られてからは、大野土建(株)の三代目社長として地域の経済の発展に建築を通して大きく貢献されました。

ここに、大野様の生前の多大なるご功績に感謝申し上げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

同窓会報第44号の原稿募集

平成23年7月25日発行予定の同窓会報第44号の原稿と広告を募集しています。会報の掲載内容は、同窓会役員や各支部役員の原稿、同窓生個人の原稿、旧職員の原稿、支部だより、同窓生の活躍状況などがあります。寄稿を希望する方は、事務局(TEL 01654131684) 1名寄高校 丸山 功)までご連絡下さい。原稿用紙をお送りします。写真(個人写真、その他)がありましたら、数枚ご提供下さい。

来年も、支部だよりや同期会だよりを積極的に掲載させていただこうと考えていますので、ご協力よろしくお願いたします。また、同窓生や恩師に関する話題のご提供も歓迎いたします。

平成22年度及び23年度総会日程

今年度(平成22年度)の本部総会・懇親会は、平成22年10月8日(金)18時30分からグランドホテル藤花で開催されます。当番幹事は、名高26期、36期、46期と名定22期の方々です。

また、来年度(平成23年度)は、名高27期、37期、47期と名定23期の方々による当番幹事で、平成23年10月14日(金)18時30分からグランドホテル藤花で開催される予定です。

編集後記

お陰様をもちまして、今年度も同窓会会員の皆様のご協力をいただきましたながら、名寄高校同窓会報第四十三号を発行することができました。原稿の提供等でご協力いただいた会員並びに旧職員の方々にはこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。

さて、名高同窓会報についてですが、A版が主流となってきたことから、ご覧の通り昨年度までのB4版からA4版に変更させていただきました。今後は字の大きさを等も考え、皆様に読みやすい紙面にしていこうと考えています。その他にも何かお気付きの点がございましたら事務局まで遠慮なくご連絡ください。